

別表第 2（第 8 条関係）

- (1) 土砂等埋立等区域の地盤に滑りやすい土質の層があるときは、その地盤に滑りが生じないようにくい打ち、土の置換えその他の措置が講じられること。
- (2) 著しく傾斜をしている土地において、施工する前の地盤と埋立て等をさされる土砂等との接する面が滑り面とならないように当該地盤の斜面に段切り等の措置が講じられること。
- (3) 土砂等による埋立て等の高さ及び法面の勾配は、次の表のとおりとする。

| 土砂等による埋立て等の高さ | 法面の勾配 |
|---------------|---------------------------------|
| 15メートル超 | 安定計算を行い、安全が確保される勾配 |
| 15メートル以下 | 垂直 1 メートルに対する水平距離が 2 メートル以上の勾配 |
| 5メートル以下 | 垂直 1 メートルに対する水平距離が 1.8メートル以上の勾配 |

- (4) 擁壁を用いる場合の当該擁壁の構造は、宅地造成等規制法施行令（昭和 37 年政令第 16 号）第 6 条から第 10 条までの規定に適合すること。
- (5) 土砂等による埋立て等の高さが 5 メートル以上である場合にあっては、土砂による埋立て等の高さ 5 メートルごとに幅 1 メートル以上の段を設けること。
- (6) 土砂等による埋立て等の完了等の後に地盤の緩み、沈下又は崩壊が生じないように締固めその他の措置が講じられること。
- (7) 土砂等による埋立て等の完了後の法面は、石張り、芝張り、モルタルの吹付け等によって風化その他の浸食から保護する措置が講じられること。
- (8) 湧水の多い土地に土砂等による埋立て等を行う場合にあっては、有孔管等による排水施設を設け、雨水等を適切に排水しなければ埋立て等を行う土砂等が流出し、又は災害が発生するおそれがある場合にあっては、十分な能力及び構造を有する排水施設を設けること。